

## 「モルドバドキュメンタリー2011」創刊2号

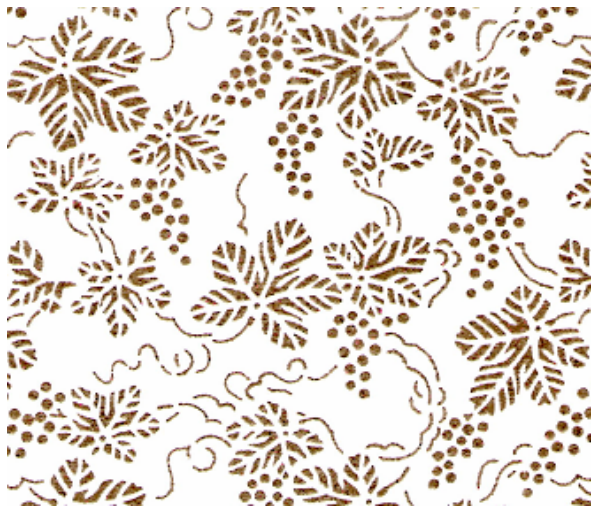
発行日 2011年2月7日

発行人 モルドバ復興支援協会 事務局長 沓澤正明

住所 〒651-1132 兵庫県神戸市北区南五葉3-2-35

電話 078-594-2785 Email molkor.jp@ybb.ne.jp

2011年8月27日はモルドバ独立20周年記念日である。支援者の皆様にモルドバでの国際ボランティア活動報告をしたいと考えて「モルドバドキュメンタリー2011」創刊2号を編集した。写真を使わない編集方針である。



### ぶどうの文様（廣岡京染工芸「金の唐紙ふらん」製）

ぶどうはモルドバの特産品である。

廣岡社長ご夫妻が2年前根田さんのご案内でモルドバの写真展へご来場下さった。平安神宮北側の「京の金唐紙ふらん」でこの文様を購入。これをずっとモルドバに関するホームページや文書に使いたかった。が、使っていかどうか胸がドキドキして使えなかった。文様は京都の伝統工芸である。

勝手に使っていいはずがないと迷った。著作権の問題が想定される。昨年12月廣岡社長のご子息が「サンタ Cloth カード展」へご来場下さったので「廣岡社長から購入した文様をホームページや文書に使っていかどうか迷っている」と話した。「問題ありません。使って下さい。」だった。今回初めて使う。原画は金で印刷されている。

## 2010年度は川村容子さんが3回モルドバ訪問

熱い思いがあってもモルドバにはなかなか行けるものではない。行く予定はあったが代表・沓澤美喜は行けなかった。しかし、川村容子さんが3回モルドバを訪問した。現在川村さんはルーマニアのヤシ（かつてのモルドバの首都）で研究活動を続けている。学術論文の発表も期待される。

2010年度、一回目は友人で高校の教師をカザネスティ子供デイケアセンターにご案内し、子供たちを励ますために交流した。

二回目は学習院女子大学の中島教授をご案内した。

三回目は10月24日から10月31日までモルドバ訪問。カザネスティ「子供デイケアセンター」の子供たちと生活した。

生々しい現地の活動内容は帰国報告会で発表される。2011年8月初旬、東京の早稲田大学と京都市か兵庫県の国際交流会館で帰国報告会を予定。

## モルドバ共和国国際ボランティア活動プロジェクト

現在のモルドバ復興支援協会の活動全般の公式ドキュメント

### 1. モルドバの沿革

1991年旧ソ連から独立したモルドバは領土が九州と同じくらいの面積であり、人口400万人程度の小さな国です。ヨーロッパの最も東に位置しておりラテン系民族であるルーマニア人が多く住んでいます。旧ソ連は圧倒的にスラブ系民族であるロシア人やウクライナ人が住んでいる中で、モルドバは古代ローマ帝国以来地政学的要衝でした。東はウクライナ、西はルーマニア、北はロシア、南はトルコから戦争のたびに侵略され戦場として受難の歴史を歩んでいます。現在のモルドバは東西分断国家となっていて、領土統一のための7者協議が行われています。アメリカ、ロシア、ウクライナ、全欧安全保障協力機構（OSCE）、EUとモルドバ、沿ドニエストル[共和国]の7者です。

首都キシナウでは5階建てくらいのビル群にローマ帝国時代から受け継がれたデザインが施されていて、景観の美しいアンティークを観光することができます。

少し首都を出て農村に入ると、丘の続く大陸的な風景を楽しむことができますが、今も馬車が往来する貧しい生活がそこにあることがわかります。

## 2. 当協会の主たる活動実績

当協会の設立は1997年4月1日ですが当協会設立以前、1994年からモルドバを訪問活動しています。本年はモルドバ訪問16周年です。当協会の活動が長い間続いているのは「笑顔」にあると考えています。

私たちはいつでも、できるところから始めました。そして最初の3年くらいはあまり効果的な実績はありませんでした。その反省の結果、当協会を設立し、現地モルドバの大学教授、教育者、知識人、元官僚、弁護士、医師などと協力し合って現地の要望による様々なプロジェクトに対して、必要な経費を届けることにより効果的な活動実績をあげることができるようになりました。

私たちは現地の人たち、特に子供たちの「笑顔」が見たくて活動を続けてきました。モルドバに必要なのは励ましと支援です。主たる活動を下に一覧表で表示しました。

カザネスティ孤児院支援  
IEF（国際教育財団）支援  
モルドバ伝承音楽フィルムコンサート支援  
国立劇場ミハイ・エミネスク支援  
モルドバの学生日本招待  
長野オリンピックへモルドバのジャーナリスト3人招待  
モルドバの農業NGO「農婦の会」（ツウェレンクツァ）支援、トラクター寄贈  
「ツウェレンクツァ」会長タマラ・ソーコル女史を日本に招待しワゴンで全国各地の農業視察。9日間で日本縦断2000km走破  
10周年記念写真集発行  
モルドバの女優ダニエラ・ムドリアクさん神戸招待  
「震災復興10周年コンサートin舞子ピラ」開催  
カザネスティ「子供デイケアセンター」設立運営  
テレビ東京視聴者の支援によりカザネスティ公立学校の食堂用テーブル寄贈と床のタイル張り支援  
カララシのサナトリウム支援  
早稲田大学大学院生スタディツアー  
モルドバ日本文化文明友好協会支援  
京都・神戸・広島で活動写真展 2009 開催  
京都市国際交流会館で「サンタ Cloth カード展」後援

### 3. 今後の展望と支援プロジェクト

モルドバはとても新しい国です。モルドバの基幹産業はワインの製造・輸出ですが、広大で黒土と言われる農地はぶどう畑以外は活性化されていないように見えます。

その原因は約400万人の人口の内、約200万人の働ける世代が子供や年輩者を残して国外に出稼ぎに出ているからです。ジャガイモ、タマネギ、トウモロコシ、小麦などの農作物は作っても消費者が激減しています。作ってもあり余ってしまうという現実が農業の復興を妨げていることがわかります。

外国に出稼ぎにいけない人は失業、アル中、家庭内暴力、人身売買、臓器売買などモルドバの未来に影を落とす原因になることもあります。

また、子供たちや若者はモルドバの国内に希望を見出すことが難しく悲観的になっています。

#### 支援要請額

|                  |       |
|------------------|-------|
| 子供・障害児への支援プロジェクト | 300万円 |
| 青年・学生への支援プロジェクト  | 300万円 |
| 女性・老人への支援プロジェクト  | 300万円 |
| 農業への支援プロジェクト     | 300万円 |
| 文化への支援プロジェクト     | 300万円 |

### 4. プロジェクトが成功する3条件

#### 【1. 現地コーディネーターの獲得】

日本にいる私たちが「これはできる。実現可能である。」と思って支援金を集めても失敗することがあります。それは、現地にいいコーディネーターを見出せなかった場合です。

たとえば、当協会設立以前は、モルドバの国会議員（女性）の招待状によって入国しました。その人の尽力により活動は新聞社やテレビ局の注目の的となりました。しかし、多くの支援金は効果的に使われていなかったことがずっと後になって判明したのです。

以来、私たちは政治家と決別し、知識人たちの協力を得て活動することにしたのです。

当協会は現在、モルドバの著名な教育者セラフィマ・サワ元教授や元大統領首席補佐官ブラドゥツァヌ・ライサ女史にコーディネーターを依頼して様々なプロジェクトを成功させてきました。

#### 【2. 政府がやりたくてもできない分野】

政府がやりたくてもできない分野のボランティア活動をしたいと私たちは考えています。反政府活動とか政府批判は私たちの活動目的になることはありません。また、政府がやっていることを私たちがする必要もないわけです。

必要性があっても政府がしたくてもできない分野は成功すると考えます。

#### 【3. 経費は最低に支援は最大に】

日本国内での広報活動とか経費は最低に、モルドバ現地への支援は最大にすることが日本国内の支援者が最も期待することです。

全体の収支報告書よりもプロジェクトごとの支援者への報告を最優先にしてきたので持続可能な支援活動ができたのだと考えます。

#### 駐ウクライナ日本大使館『モルドバ週報』から

ウクライナの日本大使館のホームページに『モルドバ週報』が掲載されている。日本語でモルドバの現在を読むことができる。最近の記事から一部掲載する。

平成23年1月12日号【12月25日～1月7日】から

・30日、民主党は、党代表会議において自由民主党及び自由党との連立形成を決定。その後、自由民主党、民主党及び自由党は、連立与党「欧州統合のための同盟」(AEI)形成の合意文書に署名。

・30日、議会は、議員101名のうち57名の賛成をもってルブ民主党党首の議会議長への選出を決定。ルブ議会議長は大統領代行に就任。また、議会は、プラホドニウク民主党議員の議会第一副議長への選出及びパリホヴィチ自由民主党議員の議会副議長への選出を決定。

### 藤原潤子さんの『呪われたナターシャ』

現代ロシアにおける呪術の民族誌

人文書院 2800円+税

私たちの活動を研究者の立場から支援をして下さっている文化人類学の研究者藤原潤子さんがご自身の博士論文をもとに『呪われたナターシャ』を昨年発表した。有名書店の文化人類学のコーナーで販売されている。全国の図書館でも貸し出されている。著者はロシアのカレリア共和国に単身で数年滞在してポスト社会主義の宗教事情を研究してこられた。カレリア共和国はモルドバより遙か北にあってフィンランドに接している。呪術とキリスト教の関係を論述しながら、かつての地縁共同体に代わって呪術に関する知的なネットワークが存在することを実証している。

1917年ロシア革命、1991年旧ソ連崩壊。その後キリスト教は復興している。同じ理由で呪術も復興している。

私であれば、神を中心としたキリスト教は価値基準が変遷しないから復興し、共産主義は価値基準がいつも変遷したから滅亡したと考えるが、著者は、キリスト教は変遷しながらも存続していると見ているようである。

ここに、呪術がいかにかにキリスト教に取り込まれていったのか、呪術がいかにかに科学的な言葉を必要としたのか、呪術を信じていなかった人々がどのようなプロセスを経て信じるようになったのか、有神論者にも無神論者にも示唆に富んだ表現は驚くに値する。一読をおすすめしたい。ちなみにロシアで呪術を信じている人口は7%、ロシア社会では呪術に関する新聞広告、雑誌、学術書が多い。



エレオノラ先生（絵：遊霞）

カザネスティ「子供デイケアセンター」は学校の一つの教室と遊戯室を放課後だけ無料で借りて、学校へ通えない子供たちを保護している。エレオノラ先生は退職教師。子供たちの宿題や楽しみめんどうを見ていただいている。